

20世紀におけるプレトリーオ宮（アンギアーリ市）地震、修復と再修復

オリンピア・ニリオ（ピサ大学・美術史学科）

翻訳：兵藤 紀久夫（株）文流 イタロサービス

要旨

アンギアーリ市中心部にあるプレトリーオ宮は、改造と修復の複雑な歴史をたどってきた。その理由は、様々な記録に残されているように、18世紀以降、数々の地震に見舞われてきたことに由来する。20世紀以降、1917年から2001年の間に発生した地震被害に伴い、建物には多くの工事が行われてきた。今日、プレトリーオ宮は、近年の「文化財における地震リスクの評価とその縮小のためのガイドライン」に従って、修復計画および耐震改修の対象となっている。

キーワード

建築修復、地震、補強、地震の歴史

トスカーナ州史跡保存事務局により作成された、アレッツォ県内の記念建造物リストに、アンギアーリ市のプレトリーオ宮（アレッツォ県）が記載されたのは1901年に遡る¹。アンギアーリ市立古文書館で保管されている数多くの書簡集は正に、この20世紀初頭のものである。書簡集からは、市本庁の所在地を、プレトリーオ宮から、現在は図書館と市立古文書館があるコルシ宮内の適切な場所に移すことに対して、役人の中で激しい論争があったことが読み取れる²。

実際、20世紀初めにおける建物の状態は、特に構造面において満足できる状態に無かった。加えてプレトリーオ宮は1339年より、アンギアーリ小教区主任司祭管区の本部を兼ねていたが、管区が最終的に廃止された1840年以降、建物には数多くの改造が行われてきたことも挙げられる。1849年12月7日、トスカーナ大公レオポルド2世の命により、アンギアーリ小教区主任司祭館（プレトリーオ宮）内には民事務官裁判所が設けられ、その後、現在のように市役所本庁となった。

後に市の専任技術者となったフランチェスコ・トゥーティの監修により、維持・近代化工事計画策定のための評価報告書作成が開始されたのは、1858年のことだった。計画の中心となったのは、過去に何度も行われた工事によって改悪された、オリジナルな外観の復旧工事である。この過去の工事とは、市立古文書館内に保管されている1764年の図面内に何度も記録、注記されている、構造的に不安定な状態に対処したものであった³。

画家アントニオ・ジュンティの仕事（1895年）によって、20世紀初めのプレトリーオ宮は素晴らしい外観を誇っていた。数世紀に渡って交替・活動してきた小教区主任司祭たちの、数多くの紋章の脇には、ジュンティによって、美しいズグラフフィート（掻き絵による壁面装飾）が描かれたのである。

建物内部はその外観とは異なり、薄暗く、時に狭苦しく、

じめじめとした雰囲気を残していた。第1次世界大戦の勃発に伴い、フィレンツェ軍士木局は1916年4月19日、プレトリーオ宮1階の2部屋（現在、市技術局が使っている部屋）を接収した。この2部屋は、アンギアーリに駐留していた兵士の駐屯用に使われた⁴。

翌1917年4月26日、アンギアーリ市は強い地震に見舞われる。震源は、アンギアーリ市から数キロの地点、正確にはモンテルキ市とチテルナ市の中間にあたる地点だった。地震は非常に激しく、ヴァルティバリーナ地方の多くの市街地で、数多くの被害が記録された⁵。同年9月20日に市専任技師アゴスティノ・マルティーニが作成した評価報告書からは、プレトリーオ宮が被った被害と、その後に行われた工事全てが読み取れる⁶。評価報告書は1階、2階の部屋で行われた全ての工事を対象とするが、特に建物の南東側、常に構造的安定性に問題を抱えてきた、斜面のある側に、その多くが割かれている。安定性の問題は恐らく、プレトリーオ宮の南東壁面が載る地盤（谷側に面する）の地質学的特質に由来するものと考えられる。実際、1764年以降、不安定な状態の主なもの、ヴィカーリオ要塞と市壁に面した側、つまり下方の谷に面した側で記録されている。

1920年9月17日、4つの大きな控え壁の建設を想定して、以前の評価報告書が改訂された。これらの控え壁は、現在でも、プレトリーオ宮南西側の立面を特徴づけている。

評価報告書の補足書類では、南東側の壁面を支える4つの控え壁の建設に際して、工事の順序を詳細に検討していた。はじめに基礎工事のため、地盤を通常の通り掘削する。次にコンクリートを打ち込んで基礎をつくり、土砂を埋め戻す。石積み仕上げの控え壁を建設し、控え壁と既存壁体をつなぐ、すき間を設ける。その後、すき間に控え壁と既存構造壁とを繋ぐ壁体をつくる。見える部分のみ、控え壁の石組み継ぎ目にセメントを詰める。東および南東の壁面のみ、部分的に石

Il Palazzo Pretorio di Anghiari nel XX secolo. Terremoti, restauri e derestauri.

Olimpia Niglio

Università di Pisa, Dipartimento di Storia delle Arti

ABSTRACT:

The Pretorio Building, in Anghiari town center, today shows a complex history of transformations and restaurations. Most of them were due to important seismic events that, since the XIII century, have been widely documented. Starting from the XX century, the main interventions followed the damages caused by earthquakes that held from the 1917 to the 2001. Today the Building is object of a restoration project and seismic improvement as provided from the recent Lines for the evaluation and reduction of the seismic risk of the cultural patrimony.

KEY-WORD:

architectural restoration, earthquake, consolidation, history of the earthquakes.

Risale al 1901 l'inserimento del Palazzo Pretorio di Anghiari (Arezzo) nell'elenco degli edifici monumentali della Provincia di Arezzo, redatto a cura dell'Ufficio Regionale della Conservazione dei Monumenti della Toscana¹. Appartengono proprio a questi primi anni del XX secolo numerosi carteggi, conservati presso l'Archivio Storico Comunale di Anghiari, in cui leggiamo le aspre polemiche intercorse tra gli amministratori comunali circa il trasferimento della sede municipale dal Palazzo Pretorio in luogo più idoneo individuato in Palazzo Corsi, attuale sede della biblioteca e dell'Archivio Storico Comunale².

Al principio del secolo in realtà la situazione del Palazzo non era delle più soddisfacenti soprattutto da un punto di vista strutturale a seguito anche di ingenti trasformazioni intervenute dopo il 1840, anno in cui fu decretata la soppressione definitiva del Vicariato di Anghiari per il quale il Palazzo era stato sede fin dal 1339. Il 7 dicembre 1849, con decreto del Granduca Leopoldo II, nel Palazzo Vicariale di Anghiari fu istituita la Pretura Civile e poi sede comunale come ancora oggi.

Solo a partire dal 1858 su interessamento dell'ingegnere Francesco Tuti, poi tecnico comunale, iniziarono ad essere redatte perizie finalizzate alla progettazione di interventi di manutenzione e di ammodernamento. Si trattò soprattutto di lavori volti a ripristinare un aspetto originario della fabbrica stravolta dai numerosi interventi su di essa eseguiti anche per ovviare a problemi di dissesti più volte registrati ed annotati come nei disegni del 1764, conservati presso l'Archivio Storico Comunale³.

Il Palazzo Pretorio al principio del XX secolo grazie ai lavori eseguiti ad opera del pittore Antonio Giunti nel 1895 mostrava una certa magnificenza esterna con opere a graffito accanto ai

numerosi stemmi dei Vicari che si erano alternati nel corso dei secoli.

Diversamente al suo interno si conservavano ambienti bui, a volte angusti ed umidi. Con l'inizio del primo conflitto mondiale, il 19 aprile 1916 la Direzione del Genio Militare di

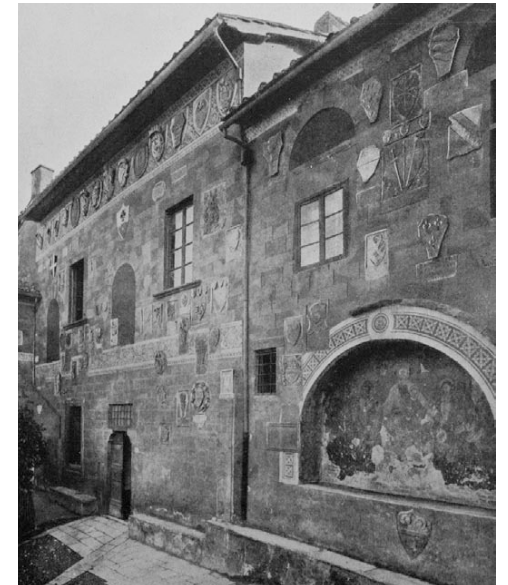


図1
アンギアーリ。20世紀初頭のプレトリーオ宮の正面ファサード。P.L. オッキエーニ著、「モンタウトからパルツェまでのテヴェレ川流域：テヴェレ川の水源」、1910年より抜粋。

Fig.1
Anghiari. Il prospetto principale del Palazzo Pretorio nei primi anni del XX secolo. Tratto da Pier Ludovico Occhini, "Valle Tiberina da Montauto alle Balze: le sorgenti del Tevere", (1910).

組みを解体し、既存部同様に石材を“つぎはぎ式に”組み込む工事が予定された。こうした工事は特に東側外壁、南東側外壁、そして現在の事務室の窓上に位置する南東側の壁面で行われるようになっていた。控え壁は、評価報告書補足書類内で計画された通りに建設され、今日見るように現存している。これら全ての工事は、その歴史的・芸術的価値が認められた建物を対象に行われたが、保存に関する規定や注記の法的根拠は、1909年法のみを寄ったことを忘れてはならない。

ここで、アンギアーリ市の新しい建築規定が1929年に採択されたことを指摘しておく。1929年8月5日付市長裁定第61号の第9章「歴史的遺跡、芸術的遺跡の保存規定」を、以下に引用する：

第41条—関連する法令や諸規定がある場合を除き、芸術的もしくは歴史的価値をもつ建物に対しては、市長にその旨を事前に通知することなく、一切の工事を行ってはならない。

第42条—市長は、建設委員会の見解を聞いた上で、公序良俗および技術規範に反すると認められる工事を差し止めることができる。

第43条—建物の修復または解体の際に、芸術的もしくは歴史的価値のある遺構が発見された場合、市長は、発見された記念建造物または発掘品の保存に対して、緊急に必要な処置を講ずるものとする⁷。

後の1935～36年にかけて、プレトリーオ宮には大規模な工事が行われたが、構造面への配慮が全く無かったため、不安定な状態を改善するどころか悪化させるに至り、現在も貴重な建物を脅かし続けている。1935～36年の工事の数年前（正確に言えば、1932年2月18日）に、アレツォ県土木局長のC. クインティエーリ技師が、県内のすべての市町村に対して、1930年4月3日付勅令第682号（後に1931年1月6日付法律第92条として法制化）の諸規則の順守を求めた。具体的には、第2類に分類されている区域（アンギアーリ市など）については、当該区域内における新規の建設行為は、既存建造物と同様に、「地震による被害を排除するか、最小限度に食い止めるために」、1931年法の第44条および第57条の規定を順守しなくてはならない旨の指示を出した⁸。

以下に記す工事においては、上に挙げたようなことは、特に考慮されなかった。1935年2月10日、市技術局による、プレトリーオ宮内に置かれた事務室の整備計画が認可された。代表的ないくつかの部屋を拡張するために境界壁を撤去し、正面玄関の大扉の右側にある窓に見られるように、新たな開口が設けられるなど、内部を「開放する」工事が行われた。構造の面から見て、最も重要な工事は、疑いなく、プレトリーオ宮入口ホールの整備だった。入口ホールは当時まで、技術局事務室や倉庫にあてがわれた複数の部屋に分かれていた。

現在のホールの、外側から見て右側部分だけが「入口ロビー」として使われていた。実際、構造壁が現在の玄関ホールの空間を2分していた。当時の状態は、1764年の図面や、後の1884年の図面から推察される。1935年より実施された計画は、プレトリーオ宮に、過去と現在が調和した、名高い建物の威信に見合った「豪華かつ荘厳な」玄関を再び与えることを意図あてられたしていた⁹。整備工事は、市技術部が作成した1935年6月19日付の評価報告書に従って行われることとなり、1935年6月22日、ヴェスコヴィーニ・ウゴノット氏が請負工事を落札した。

第2次世界大戦の被害に伴う緊急事態を受けて、1945年以降、多くの特別工事が行われた。大戦中、市当局は、枢軸軍政府の下で、主要なインフラ（水道、道路、公共施設）¹⁰の仮復旧工事に取り組んだ。

1954年4月4日、アンギアーリ市議会は、市技術部が策定した1954年3月29日付計画を承認し、市役所本庁の修復工事を決議した。工事は主として、個々の用途の再編と内部改修を目的としたものだった。

修復工事は主に、技術局上部にある廊下床のSAPタイプ強化レンガによる補修、技術局上階の市長室および秘書室（廊下を含む）の砂岩タイルの補修で構成される。これに加えて、屋根の完全改修、2階に上る階段の改装（既存のものと同様の、石の踏み板を用いる）も予定された。木工事については、内部補助扉や窓の修繕が必要とされ、室内の換気や採光に不可欠な開口部の拡張も行われることから、一部に枠などの新たな部材も用意される¹¹。

上記の工事とは別に、1963年には、アレツォ文化財保護局作成の1963年3月14日付評価報告書に基づき、プレ



図2
アンギアーリ。1930年代のプレトリーオ宮の様子。1917年の地震の後、南側壁面に設けられた4つの控え壁が見える。
Fig.2
Anghiari. Palazzo Pretorio in un'immagine degli anni '30 del XX secolo. Si osservano i quattro speroni sul prospetto sud realizzati dopo il terremoto del 1917.

Firenze requisiva due ambienti posti al piano terreno del Palazzo e precisamente le stanze attualmente destinati ad uso dell'ufficio tecnico comunale. Tali ambienti furono adibiti al distacco dei soldati in fermo ad Anghiari⁴.

L'anno seguente il 26 aprile 1917 Anghiari fu interessata da un forte terremoto il cui epicentro fu registrato a pochi chilometri dal paese e precisamente tra Monterchi e Citerna. Questo evento fu molto violento tanto da essere ricordato per i numerosi danni registrati in molti centri della Valtiberina⁵. Da una perizia redatta il 20 settembre dello stesso anno dal tecnico comunale Agostino Martini, si deducono tutti i danni rilevati ed i lavori effettuati sul Palazzo⁶. La perizia prende in esame tutti i lavori eseguiti presso gli ambienti posti soprattutto a sud-est del Palazzo, sia al piano terreno che al piano primo, versante da sempre interessato a problemi statici, probabilmente anche per la particolare orografia del terreno (ossia esposta verso valle) su cui appoggia questo versante del Palazzo. Infatti sin dal 1764 i maggiori dissesti venivano registrati proprio su questo lato prospiciente il bastione del Vicario, le mura e quindi la valle sottostante.

Il 17 settembre 1920 la precedente perizia veniva aggiornata prevedendo la costruzione di 4 grandi speroni che ancora oggi caratterizzano il prospetto sud-ovest.

Nel dettaglio la perizia suppletiva prevedeva la costruzione di 4 speroni a sostegno del muro di Sud-Est rispettando il seguente ordine di lavori: scavo di terreno ordinario per la realizzazione della fondazione; gettata di calcestruzzo; riempimento delle fondazioni con terra; costruzione degli speroni in muratura ordinaria con paramento "in sasso"; realizzazione di strappi per il collegamento degli speroni alla muratura esistente e conseguente realizzazione di muratura a collegamento degli speroni con il muro portante esistente; stuccature in cemento neigiunti delle pietre degli speroni nelle sole parti a vista. Per i soli muri perimetrali di est e di sud-est si prevedevano lavori di demolizione in breccia e ricostruzione a "scuci e cuci" con applicazione di leghe di pietra. In particolare tali lavori interessavano il muro perimetrale di Est, il muro perimetrale di Sud-Est e il muro di Sud-Est sopra la finestra dell'attuale stanza adibita a segreteria. Gli speroni furono realizzati rispettando quando predisposto dalla perizia suppletiva e tutt'oggi ancora presenti.

Non dimentichiamo che tutti questi interventi previsti venivano eseguiti su un palazzo di riconosciuto valore storico ed artistico ma le cui prescrizioni ed annotazioni conservative specifiche trovavano supporto solo nella legge del 1909.

Interessante risulta qui ricordare l'adozione nel 1929 del nuovo regolamento edilizio del Comune di Anghiari con deliberazione podestarile n°61 del 5 agosto 1929 in cui al

capo 9° "Disposizioni per la conservazione dei monumenti storici ed artistici" si recita quanto segue:

art. 41. Salve le disposizioni di legge e dei regolamenti in materia non potrà eseguirsi alcun lavoro negli edifici aventi pregio artistico o storico, senza darne preavviso al Podestà presentandogli, ove occorra, il progetto.

art. 42. Il Podestà, udito il parere della Commissione edilizia, può impedire l'esecuzione di quelle opere che fossero riconosciute contrarie al decoro pubblico ed alle regole d'arte.

art. 43. Se nel restaurare o nel demolire un edificio qualsiasi si venisse a scoprire qualche avanzo di pregio artistico o storico, il Podestà ordinerà i provvedimenti che siano richiesti dalle urgenti necessità della conservazione del monumento od oggetto scoperto⁷.

Significativi lavori al Palazzo furono poi realizzati tra il 1935 ed il 1936 ma senza alcun rispetto per la natura strutturale del Palazzo, spesso aggravando più che intervenendo a riparare fenomeni di dissesto che tutt'oggi interessano il monumento. Pochi anni prima degli interventi del 1935-36 e precisamente il 18 febbraio 1932 l'ingegnere C. Quintili, ingegnere capo dell'Ufficio del Genio Civile di Arezzo inviava a tutti i Comuni della Provincia l'osservanza alle norme di cui al R.D. 3 aprile 1930 n°682 convertito poi in legge n° 92 del 6 gennaio 1931. In particolare per le zone classificate in seconda categoria, quale il comune di Anghiari, prescriveva che in queste località, per lavori che interessano le nuove costruzioni così come le esistenti è necessario che gli interventi previsti rispettano quanto prescritto dalle leggi su citate ed in particolare gli articoli 44 e 57 della legge del 1931, *al fine di eliminare o ridurre al minimo i danni del terremoto*⁸.

Tutto ciò non fu tenuto particolarmente in considerazione nei lavori di seguito descritti. Il 10 febbraio 1935 veniva firmato il progetto per la sistemazione degli uffici presenti nel Palazzo Pretorio, a cura dell'Ufficio Tecnico Comunale. Furono eseguiti lavori di "liberazione" interna, eliminando muri di spina al fine di allargare alcuni ambienti ritenuti più rappresentativi ed aprendo anche nuove aperture come la finestra posta a destra del portone d'ingresso principale. L'intervento più significativo da un punto di vista strutturale fu certamente la sistemazione dell'atrio d'ingresso al Palazzo che fino a quei giorni risultava essere suddiviso in più ambienti adibiti ad ufficio tecnico e magazzino. Solo la parte destra (entrando) dell'attuale atrio era destinata al "vestibolo". In realtà un muro portante suddivideva in due parti l'attuale spazio dell'atrio d'ingresso, come si vince sia dalle piante del 1764 che dalle successive del 1884.

トリーオ宮の正面ファサードの大規模な修復が検討された。

フィレンツェ文化財保護局が作成した1963年3月14日付評価報告書に記述されるように、アンギアーリ市の旧プレトリーオ宮については、現在のポーポロ広場に面したファサードの大規模な修復工事が行われた。教育省・史跡美術総局が1963年3月27日付で承認した総額700,000リラの工事の内容は、次の通りである：古い漆喰部分の解体。石灰モルタルによる漆喰部分の補修。石灰の着色。石材による歴史的建築要素の評価と復元（欠損部分の補填を含む）。最後に、石に彫られた紋章の、シリコンその他適切な材料による補強¹²。

古い漆喰の除去により、下層に残されていたオリジナルの装飾要素が明らかになった。この装飾要素は現在でも、プレトリーオ宮ファサードの特徴となっている。しかし残念ながら、古い漆喰を除去したことにより、19世紀末に描かれたズグラフィート装飾の大部分が消失してしまった。壁面には今日見られるように、計画に従って漆喰の補修と、明るい色での彩色が行われた。プレトリーオ宮のファサードは、現在に至るまで、石材や壁画による、またそのいくつかはテラコッタによる碑銘や紋章によって特徴づけられている。紋章は入口ホール内部でも数多く見つかった。これらの紋章は14世紀以降、代々の小教区主任司祭、行政長官、平民長官が活動してきたことを物語っている。

1963年から始まった修復工事の最中、プレトリーオ宮の入口ホール内、外から見て左側の壁、現在では技術局に通じる扉の付近で、「正義」を描いたフレスコ画が発見された。15世紀半ばに描かれたと思われるこの作品は、フィレンツェの画家アントニオ・ゴルジエーリ（別名アントニオ・ダンギアーリ）の作とされている。この画家は15世紀に、サンセポルクロとアレツォの間にあるアルタ・ヴァッレ・ティベリーナで、多くの仕事をした。ピエール・パオロ・ドナーティ編の



図3
アンギアーリ。1940年代のプレトリーオ宮の様子。正面玄関の右側に新たに設けられた窓が見える。
Fig.3
Fig. 3 - Anghiari. Il Palazzo Pretorio in un'immagine degli anni '40 del XX secolo. Si osserva la nuova finestra aperta a destra dell'ingresso principale.

美術雑誌『アンティキタ・ヴィーヴァ』の1964年8月号に掲載された、15世紀のテヴェレ川上流地域出身の画家リストの中には、アントニオ・ダンギアーリの名も記載されている。同紙の中で彼は、同時代のピエロ・デッラ・フランチェスカなど、後に有名になった画家に劣らない扱いをされている。

先に述べた修復と共に、2階の市議会室の大規模な工事も行われた。具体的には、歴史的な文書を保管していた木製の書棚がすべて除去された。文書のほとんどは、旧コルシ宮内の市立古文書館に移された。1963～65年に行われた修復工事は、建物地下にある部屋存在を明らかにした。調査の結果、これら地下室は、かつての「ヴィカーリオ要塞」から区画された菜園と同レベルにあることが分かった。

この最後の修復工以降、1980年代にいたるまで、プレトリーオ宮には新たに大規模な工事は行われなかった。1981年6月8日、アンギアーリ市から委託を受けた建築家ヴァレリオ・デッロマリノが、「プレトリーオ宮内部の部分的整備と、屋階の改装」に関する計画に署名した¹³。デッロマリノの計画では、第一にプレトリーオ宮の屋根全体の再建に主眼が置かれており、その次に、構造に関する工事を必要とする、建物内部の事務室群の再構成が検討された。全ての要素が設計された後、それまでに行われた修復工事（特に1930年代、1960年代に行われたもの）の多くを変質させながら、修復作業が実行された。

プレトリーオ宮の建築的特質に照らして適合しない工事をもたらした、本計画の準備段階における建物評価の過程に関する資料は、ほとんど残されていない。この工事は同時に、重要な歴史的痕跡を消し去る結果となった。これら最後の修復工事において、主要ファサードの2階部分、市議会議場に相当する位置には、床まで届く半円アーチの窓が新たに開口された。



図4
アンギアーリ。1980年代末のプレトリーオ宮の様子。正面ファサードに開口された半円アーチの窓が見える。
Fig.4
Fig. 4 - Anghiari. Palazzo Pretorio in un'immagine della fine degli anni '80 del XX secolo. Si osserva l'apertura della porta-finestra sul prospetto principale.

Il progetto realizzato a partire dal 1935 intendeva ridonare al Palazzo un ingresso "fastoso e solenne" forse in coerenza dell'antico ed attuale prestigio dell'illustre palazzo⁹. I lavori di sistemazione furono eseguiti come stabilito dalla perizia redatta dall'Ufficio Tecnico Comunale e datata 19 giugno 1935 ed appaltata con cottimo fiduciario al sig. Vescovini Ugonotto il 22 giugno 1935.

Molti lavori straordinari furono eseguiti dopo il 1945 a seguito dello stato di emergenza determinato dai danni prodotti dal secondo conflitto mondiale, periodo in cui l'Amministrazione lavorò alle dipendenze del Governatore Militare Alleato per riattivare provvisoriamente le principali infrastrutture (acqua, strade, strutture comunali)¹⁰.

Il 4 aprile 1954 il consiglio comunale di Anghiari deliberava i lavori per il restauro della sede comunale con relativa approvazione del progetto redatto dall'Ufficio Tecnico Comunale e datato 29 marzo 1954. I lavori riguardavano principalmente la riorganizzazione delle singole destinazioni e relative migliorie interne.

I lavori di restauro consistono principalmente nel rifacimento del solaio in laterizio armato tipo SAP posto in opera nella porzione di corridoio soprastante l'ufficio tecnico, nel rifacimento del pavimento in mattonelle di graniglia per l'ufficio del Sindaco e della Segreteria sopra l'Ufficio Tecnico, dei corridoi nonché del gabinetto. Inoltre è prevista la completa riparazione del manto di copertura e il rifacimento della scala d'accesso al primo piano mediante messa in opera di salini in pietra delle caratteristiche conformi a quelle esistenti. Quali lavori di falegnameria si rende necessario la riparazione di bussole interne e di finestre con fornitura di nuova provvista per alcune di queste dato l'ampliamento delle aperture di luci ritenute indispensabili per una perfetta aerazione e illuminazione dei locali¹¹.

Diversamente un intervento importante ha riguardato, nel 1963, il rinnovamento della facciata principale del Palazzo Pretorio, a seguito di una perizia redatta dalla Soprintendenza ai Monumenti di Arezzo il 14 marzo 1963.

In riferimento a quanto previsto dalla perizia redatta a cura della Soprintendenza ai Monumenti di Firenze il 14 marzo 1963, l'ex Palazzo Pretorio di Anghiari fu interessato da un importante intervento di restauro delle facciate prospettanti l'attuale Piazza del Popolo. Per un importo complessivo dei lavori pari a L. 700,000 ed approvato dal Ministero della Pubblica Istruzione, Direzione Generale delle Antichità e Belle Arti in data 27 maggio 1963, si prevedeva quando segue: la demolizione di intonaco vecchio, il rifacimento dell'intonaco con malta bastarda, la coloritura a calce, la valorizzazione e ripristino di antichi elementi architettonici in pietra con

integrazione delle parti mancanti, ed infine il consolidamento di stemmi scolpiti in pietra mediante siliconi ed altre sostanze idonee¹². La rimozione dell'antico intonaco ha messo in luce elementi decorativi originari sottostanti che sono stati conservati ed ancora tutt'oggi caratterizzano il prospetto principale del Palazzo ma purtroppo ha cancellato gran parte dell'apparato a graffito realizzato alla fine del XIX secolo. Il progetto prevedeva poi il rifacimento dell'intonaco e una tinteggiatura di colore chiaro, così come ancora si conserva. Il prospetto principale del Palazzo, tutt'oggi, è caratterizzato dalla presenza di epigrafi e stemmi scolpiti in pietra, alcuni dipinti ed altri in terracotta. Numerosi se ne ritrovano anche nell'atrio interno e testimoniano la presenza dei Vicari, Gonfalonieri e Capitani che si sono avvicendati per nelle varie epoche a partire dal XIV secolo.

Durante i lavori di restauro eseguiti a partire dal 1963 nell'atrio d'ingresso del Palazzo, sulla parete di sinistra entrando, in prossimità della porta che oggi accede all'ufficio tecnico, fu rinvenuto un affresco raffigurante la "Giustizia". Tale opera, databile intorno alla metà de XV secolo è stata attribuita al pittore fiorentino Antonio Gorgieri, detto anche Antonio d'Anghiari, vissuto nel XV secolo e che lavorò molto nell'Alta Valle Tiberina, tra San Sepolcro ed Arezzo. Dalla rassegna d'arte "Antichità viva" dell'agosto 1964 di Pier Paolo Donati, tra i pittori altotiberini del XV secolo emerge anche la figura di Antonio d'Anghiari non meno di pittori poi divenuti più noti come il contemporaneo Piero della Francesca. Con i suddetti restauri furono realizzati importanti lavori anche alla Sala del Consiglio del primo piano. In particolare furono eliminate tutte le scaffalature lignee che conservavano documenti storici e molti dei quali collocati presso l'Archivio Storico Comunale nell'ex Palazzo Corsi. I lavori di restauro eseguiti tra il 1963 ed il 1965 hanno consentito di rimettere in luce molti degli ambienti sotterranei al palazzo, riscoprendo anche molti di questi locali al livello dell'orto delimitato dall'antico "bastione del Vicario".

A seguito di quest'ultimo intervento di restauro non si registrano nuovi ed importanti lavori al Palazzo, fino agli anni '80 del XX secolo. Con data 8 giugno 1981 l'architetto Valerio Dell'Omarino, incaricato dal Comune di Anghiari, firma il progetto per la "Parziale sistemazione interna e la ricostruzione dei solai di copertura del Palazzo Pretorio"¹³. Il progetto dell'architetto Dell'Omarino prima di tutto soffermava la sua attenzione sulla ricostruzione dell'intera copertura del Palazzo e poi prevedeva in esame la riorganizzazione degli uffici interni mediante opere che rendevano necessarie anche lavori di carattere strutturale. Il tutto veniva progettato e poi realizzato alterando molti degli interventi di restauro che lo avevano

1997年9月26日の地震の後、プレトリーオ宮は南東面(谷と市壁に面する側)を中心として、再び構造的に不安定な状態となった。こうして、アンギアーリ市、トスカーナ州(州地域保護局)、アレッツォ文化財保護局の書簡に示される通り、建物の補強計画作成に関する全ての手続きが開始された。この補強計画は、建築家ヴァレリオ・デッロマリノーと、地元アンギアーリ市内の専門家、アンジョーロ・マグリニ技師、ジョルジョ・グエッリーニ技師に委託された。アレッツォ文化財保護局とトスカーナ州の声明と指示を求める計画は、その後、2001年11月26日にアレッツォ県を襲った地震に伴って問題が起きたにもかかわらず、成果を得るに至らなかった。こうした事後、プレトリーオ宮は現在、「文化財における地震リスクの評価とその縮小のためのガイドライン」の規定に基づき、イタリア文化省・建築資産監督局による工学技術・再生手法面の監督の元で実施される、新たな修復・耐震改修計画¹⁴の対象となっている。

注

1. A.S.C.A.supl. (アンギアーリ市立古文書館。追加目録 - 1870年～1923年) Fondo società paesane e argomenti d'interesse locale vario (農村社会・各種地域問題文庫)、ファイル 412号、記念建造物リスト分冊(1901年4月)。
2. A.S.C.A.supl. Fondo Affari Generali (一般問題文庫)、ファイル 124号、Relazione tecnica Palazzo Corsi Tiana per istituto Martini con rilievo topografico (マルティニニ研究所向けの地形測量を含むコルシ・ティアーナ宮に関する技術報告)、フォルダー 134号「フランチェスコ・トゥーティ技師監修により作成されたコルシ・ティアーナ宮に関する報告・評価報告書(1900年10月)」。L. バッビーニ著「プレトリーオ宮の変遷」、"Vicende dell'antico palazzo", p.34 (タイプ原稿)(アンギアーリ市立古文書館,1989年)。
3. A.S.C.A.pr. (アンギアーリ市立古文書館。本目録 - 1870年以前)。Fondo Atti relativi all'amministrazione della Comunità di Anghiari (アンギアーリ市行政文書文庫)、ファイル 285号(プレトリーオ宮平面図)(1700～1776年)、ばら紙(1959年10月19日目録)。
4. A.S.C.A.supl. Fondo Affari Generali (一般問題文庫)、ファイル 154号、Atti di consegna dei locali ceduti dall'Amministrazione ai Militari, 1915-1916 (行政機関から軍に譲渡された部屋の引渡し文書—1915年～1916年)、市フォルダー。
5. 歴史を見ると、1917年の地震の前にも、いくつかの地震がこの地域に被害を及ぼしている。具体的な例は次の通り:1352年12月25日(震源:モンテルキ)、1458年(震源:チッタ・ディ・カステッロ)、1694年4月4日(震源:サンセポルクロ)、1766年12月25日(震源:ウンブリア北部)、1789年9月30日(ヴァルティベリーナ)。
6. A.S.C.A.supl. Fondo Ufficio Tecnico (技術部文庫)、ファイル 407号、1917年地震、Aggiornamento perizia 20 settembre 1917 relativa ai lavori di restauro del Palazzo Comunale danneggiato dal terremoto, anno 1920 (地震被害を受けた市庁舎の修復工事に関する1917年9月20日評価報告書の改訂—1920年)。
7. アンギアーリ市保管資料館(A.C.D.A.)、フォルダー 31号、分冊 10(1935



図5
アンギアーリ。プレトリーオ宮の現在の写真(2007年)。

Fig. 5
Il palazzo comunale di Anghiari in un'immagine attuale (2007)

- 年)、Regolamento Edilizio adottato con delibera del 5 agosto 1929 (1929年8月5日付決議により採択された建築規則)、フォルダー 31号、分冊 10 (1935年)
8. A.C.D.A., フォルダー 23号、分冊 23 (1932年)、技術部。
9. L. バッビーニ著 Vicende dell'antico palazzo (旧市庁舎の変遷) p.35 (タイプ原稿)。
10. A.C.D.A., フォルダー 1079号、Lavori e Restauri a Palazzo Pretorio dal 1884 al 1960 (1884年から1960年までのプレトリーオ宮に関する工事と修復)。「市役所本庁ホール」の床の施工工事評価報告書(1948年6月1日、アンギアーリ)。
11. A.C.D.A., フォルダー 1079号、Lavori e Restauri a Palazzo Pretorio dal 1884 al 1960 (1884年から1960年までのプレトリーオ宮に関する工事と修復)。「市役所本庁の修復工事」—技術報告(1954年4月2日、アンギアーリ)。
12. A.C.D.A., フォルダー 1079号、Lavori e Restauri a Palazzo Pretorio dal 1884 al 1960 (1884年から1960年までのプレトリーオ宮に関する工事と修復)。教育省史跡美術総局、費用評価報告書10号、アンギアーリ市プレトリーオ宮の保存修復(1963年3月14日、フィレンツェ)。
13. アンギアーリ市技術局資料館(A.U.T.C.A.)。プレトリーオ宮—1981年工事、「プレトリーオ宮内部の部分整備、屋階の改装」計画の技術報告(1981年6月建築家ヴァレリオ・デッロマリノー作成)。
14. 2007年9月、アンギアーリ市は、修復・耐震性改善計画の作成を、アルベルト・バルドゥッチ教授(フィレンツェ大学)および筆者に委託した。

preceduto, con particolare riferimento ai restauri degli anni '30 e degli anni '60 del XX secolo. Molto scarsa è la documentazione circa il percorso conoscitivo approntato che ha portato ad eseguire opere non compatibili con le caratteristiche costruttive della fabbrica e allo stesso tempo a cancellare segni importanti della storia e del tempo. In occasione di questi ultimi lavori fu aperta la porta finestra posta al primo piano del prospetto principale in corrispondenza della Sala del Consiglio.

A seguito del sisma del 26 settembre 1997 il Palazzo Pretorio fu ancora una volta interessato da dissesti localizzati principalmente sul versante sud-est, verso la valle e le mura castellane. Furono così attivate tutte le procedure per la redazione del progetto di consolidamento come si evince dalla corrispondenza tra il Comune di Anghiari, la Regione Toscana (Ufficio Regionale Tutela del Territorio) e la Soprintendenza di Arezzo. Il progetto di consolidamento fu affidato all'architetto Valerio Dell'Omarino e agli ingegneri Angiolo Magrini e Giorgio Guerrini, professionisti in Anghiari. Il progetto per motivate dichiarazioni e prescrizioni della Soprintendenza di Arezzo e della Regione Toscana non ha avuto un seguito, pur essendo nel frattempo emersi problemi connessi all'evento sismico che ha colpito la provincia di Arezzo il 26 novembre del 2001. A seguito di tale evento oggi il Palazzo è oggetto di un nuovo progetto di restauro e miglioramento sismico eseguito in relazione a quanto previsto dalle recenti *Linee Guida per la valutazione e riduzione del rischio sismico del patrimonio culturale* con la supervisione scientifica e metodologica anche della Direzione Generale per i beni architettonici del Ministero per i Beni e le Attività Culturali¹⁴.

Note

1. A.S.C.A.supl. (Archivio Storico Comunale di Anghiari. Inventario Suppletivo, dal 1870 al 1923) Fondo Società paesane e argomenti d'interesse locale vario, Filza n°412, Fascicolo Elenco degli Edifici Monumentali, anno 1901, mese di aprile.
2. A.S.C.A.supl. Fondo Affari Generali, Filza n° 124, Relazione tecnica Palazzo Corsi Tiana per istituto Martini con rilievo topografico, Cartella (n° 134) Relazione e Perizia Estimativa del Palazzo Corsi Tiana redatta a cura dell'Ingegnere Francesco Tuti nell'ottobre 1900. L. Babbini, Vicende dell'antico palazzo, opera dattiloscritta, Archivio Storico Comunale di Anghiari, 1989, p. 34.
3. A.S.C.A.pr. (Archivio Storico Comunale di Anghiari. Inventario Principale, fino al 1870), Fondo Atti relativi all'amministrazione della Comunità di Anghiari, Filza n°285, (Pianta Palazzo Pretorio) 1700 -1776, carte sciolte, (inventario del 19 Ottobre 1959).
4. A.S.C.A.supl., Fondo Affari Generali, Filza n°154, Atti di consegna dei

locali ceduti dall'Amministrazione ai Militari, 1915 - 1916, cartella Municipio.

5. Prima del terremoto del 1917 la storia ci tramanda altri eventi sismici dannosi che interessarono questo territorio ed in particolare i seguenti eventi: 1352 (25 dicembre) con epicentro Monterchi; 1458 con epicentro Città di Castello, 1694 (4 aprile) con epicentro Sansepolcro; 1766 (25 dicembre) Umbria settentrionale, 1789 (30 settembre) in Valteribina.
6. A.S.C.A.supl. , Fondo Ufficio Tecnico, Filza n°407, Terremoto 1917, Aggiornamento perizia 20 settembre 1917 relativa ai lavori di restauro del Palazzo Comunale danneggiato dal terremoto, anno 1920.
7. Archivio Comunale di Deposito di Anghiari (in seguito A.C.D.A.), Cartella n°31, Fascicolo 10, anno 1935, Regolamento Edilizio adottato con delibera del 5 agosto 1929, Cartella 31, Fascicolo 10, anno 1935.
8. A.C.D.A., Cartella n° 23, Fascicolo 23, anno 1932, Ufficio Tecnico.
9. L. Babbini, Vicende dell'antico palazzo, opera dattiloscritta, Archivio Storico Comunale di Anghiari, 1989, p. 35.
10. A.C.D.A., Cartella n°1079, Lavori e Restauri a Palazzo Pretorio dal 1884 al 1960. Perizia dei lavori per la costruzione del pavimento dell'atrio del palazzo comunale, Anghiari 1 giugno 1948
11. A.C.D.A., Cartella n°1079, Lavori e Restauri a Palazzo Pretorio dal 1884 al 1960. Lavori di restauro alla sede comunale. Relazione Tecnica, Anghiari 2 aprile 1954.
12. A.C.D.A., Cartella n°1079, Lavori e Restauri a Palazzo Pretorio dal 1884 al 1960. Ministero della Pubblica Istruzione, Direzione Generale delle Antichità e Belle Arti, Perizia di spesa n°10, Restauro Conservativo di Palazzo Comunale di Anghiari, Firenze, 14 marzo 1963.
13. Archivio Ufficio Tecnico Comunale di Anghiari (in seguito A.U.T.C.A.), Palazzo Pretorio - Lavori 1981, Relazione Tecnica del progetto Parziale sistemazione interna e la ricostruzione dei solai di copertura del Palazzo Pretorio redatta dall'architetto Valerio Dell'Omarino nel giugno 1981.
14. Nel settembre 2007 il Comune di Anghiari ha affidato il progetto di restauro e miglioramento sismico al Prof. Ing. Alberto Parducci (Università di Firenze) e all'autore del presente contributo.